

Mizuho Bangkok Daily Market Report

MIZUHO

Dated of 2023/09/21

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	36.15	0.10
JPY/THB	0.2437	-0.0001
USD/JPY	148.34	0.48
EUR/THB	38.52	0.02
EUR/USD	1.0661	-0.0018
USD/CNH	7.307	0.004
SGD/THB	26.48	0.07
AUD/THB	23.31	0.05
USD/INR	83.08	-0.19
USD Index	105.33	0.20

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.795	0.013
10Y (THB)	3.175	0.039
5Y (USD)	4.583	0.072
10Y (USD)	4.407	0.048

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,948.6	13.3
WTI (Oil)	90.28	-0.92
Copper	8,345.5	53.0

Stock

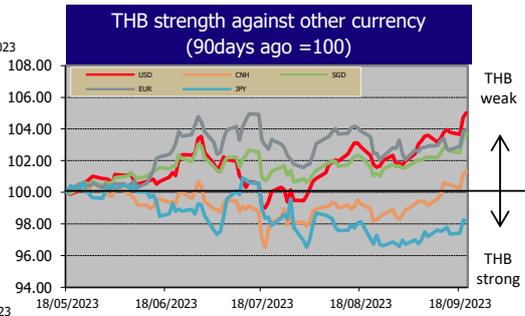
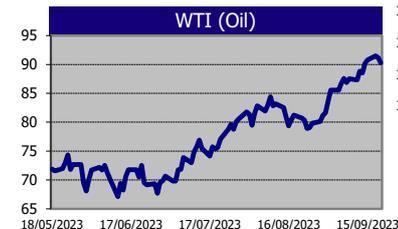
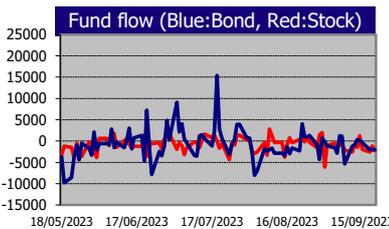
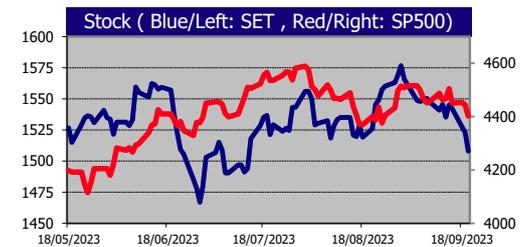
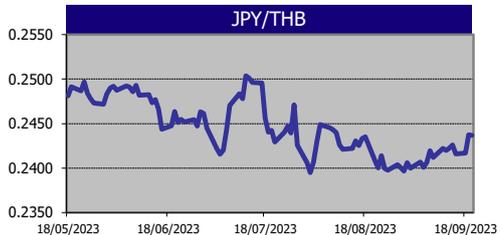
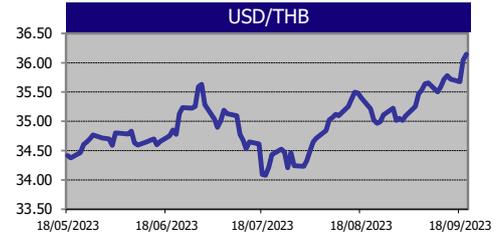
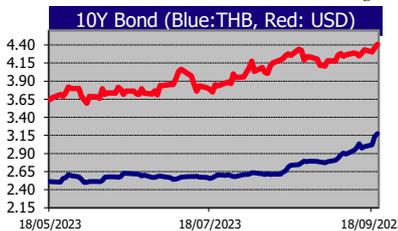
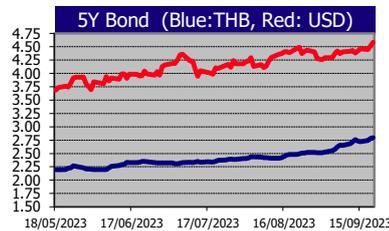
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,507.90	-15.06
NIKKEI (JP)	33,023.78	-218.81
DOW (US)	34,440.88	-76.85
S&P500 (US)	4,402.20	-41.75
SHCOMP (CN)	3,108.57	-16.39
DAX(GER)	15,781.59	117.11

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(2,253)	-1136.4
Bond net flow	(2,032)	0.0

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

・昨日のドルパーツは小幅上昇。36パーツちょうど付近でスタートしたドルパーツは、高止まりする原油価格が原油純輸入国であるタイに与える影響が懸念される中、上昇。一時36パーツ台半ば付近まで上昇し、連日の年初来高値更新の動きを見せた。ただ、同水準で勢いは一服。バンコク時間終盤にかけてオープンと同水準となる36パーツ台ちょうど付近まで戻した。海外時間に入ると、上値の重い推移となっていた米金利が下げ幅を拡大させる動きにドルパーツも36パーツを割り込み、35パーツ台後半まで下落。注目されたFOMCでは市場予想通り政策金利は据え置きとなったが、ドットチャートにおいてメンバー19人中12人が今年あと一回の利上げを予想し、2024年度の政策金利見通しが上方修正された他、パウエル議長の記者会見では「FOMC毎に意思決定を行う」としながらも「適切なならさらに金利を引き上げる用意がある」と述べたこと等が材料視されドル買地合いが強まり、ドルパーツは36パーツ台前半まで上昇。結局36.15レベルでクローズを迎えた。

●ドル円その他

・昨日のドル円は上昇。147円台後半で取引を開始すると、序盤はFOMCを控え動意の乏しい推移が続いた。ただ、バンコク時間午後に入り英国8月CPIが市場予想を下回ったことが確認されるとポンドが対ドルで下落。その流れが波及する格好でドル円は一時148円台前半を付けた。その後は米金利の軟調な動きに147円台半ば付近まで戻したものの、FOMCのタカ派色の強い内容に再度148円台前半まで上昇し、148.34レベルで引けた。

Bangkok Dealer's Eye

先週の欧ECB政策理事会では「ハト派的な利上げ」、昨日の米FOMCでは「タカ派的な据え置き」が発表され、欧米ともにインフレの上振れリスクが残る中で難しい舵取り局面となっていることが確認された。これらを通し、市場の注目は本日から開催される日銀金融政策決定会合に移る。今月上旬の植田総裁のインタビューを受け、多くのエコノミストがマイナス金利解除の予想時期を前倒したものの、少なくとも今回の会合で政策修正に動くと考えている向きはほぼない。主眼は植田総裁の真意を測ることに置かれるはずで、フォワードガイダンス修正の有無や会合後の記者会見に注目が集まりそうだ。ただし、7月の予期せぬYCC修正の際も直前に内田副総裁が単独インタビューを通じてタカ派寄りのメッセージを送っていたことを思い起こすと、先日植田総裁がインタビューで踏み込んだ発言をしたことはサプライズの予兆と捉えられなくもなく、変化に柔軟な今の日銀に対しては予断を持たないことも肝要。足元の想定外の原油高、それに歩調を合わせたドル高の潮流を前に日銀がどのような対応、メッセージを打ち出すのか、注目していきたい。(吉田)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.